

Ⅲ－（３）食と花の魅力づくり

- ◎農業の生産性向上と農産物・食品の高付加価値化
- ◎農業の国際競争力強化と農業分野での創業・雇用拡大
- ◎子どもたちへの豊かな食文化の継承

これまでの取組み状況

ニューフードバレーの形成に向けて

<がんばる農家への支援>

農業所得の向上を図るための規模拡大、農産物の付加価値向上、経営の複合化へ意欲を持って取り組む農業者を本市農業の担い手と捉え、経営の発展を支援。
また、米の需要バランスをとりつつ、稲作農家の所得の維持確保を図るため、国の制度変更を踏まえ、水田をフル活用したなかで、非主食用米の地域内流通を推進。

<6次産業化支援・農商工連携への支援>

- 農業の6次産業化・農商工連携の推進に向け、生産、加工・開発、販売を一体的に支援する体制・設備の確立。
- 農業活性化研究センターとアグリパーク（食品加工支援センター）、新潟IPC財団・食の新潟国際賞財団が連動して推進
→食のマーケットイン支援事業、6次化産業化サポート事業、食の技術コーディネート
の推進、国内外販路拡大（関西、台湾、シンガポール、ロシア）など
- 食の商談拠点として、食の国際見本市開催
- 「ニューフードバレー」：農業分野で国家戦略特区に指定

国内外に食と花をアピール

<農畜水産物のブランド化>

市内外に誇る農水畜産物を食と花の銘産品に指定し、イベントやPR活動を行うことで、認知度の向上並びに農産物のブランド化を図るとともに、「食と花のにいがた」という都市イメージづくりのため、「食と花の世界フォーラム」での国際シンポジウムや「食の新潟国際賞」を通して、本市の「食」と「花」について国内外への情報発信。

<新潟の食文化を世界に発信>

コメを中心とした本市が誇る食文化を世界に発信するため、日本初の「ユネスコ創造都市ネットワーク（ガストロノミー分野）」の認定に向けた取組みの推進。

食育・花育

<食育・花育の実践>

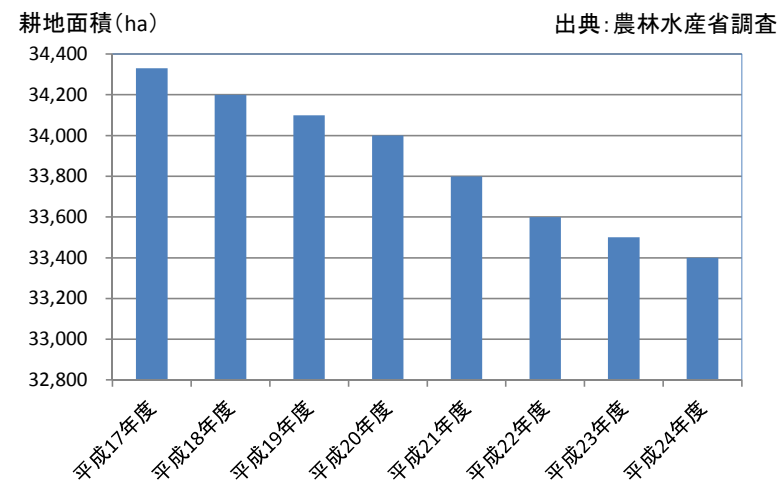
食育・花育の拠点施設である食育・花育センターにおいて、本市の「食」と「花」を楽しみながら学んでいただくとともに、食育マスター、花育マスターの派遣などにより、地域における活動を支援。

<全小学生の農業体験>

大農業都市・新潟にふさわしい、宿泊型の農業体験施設「アグリパーク」と「いくとぴあ食花」などを活用し、全小学生に食育と農業体験学習（アグリ・スタディ・プログラム）に取り組んでもらう全国初の「わくわく教育ファーム」を開始。
→子ども達が本市の農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの誇り、生きる力を育む

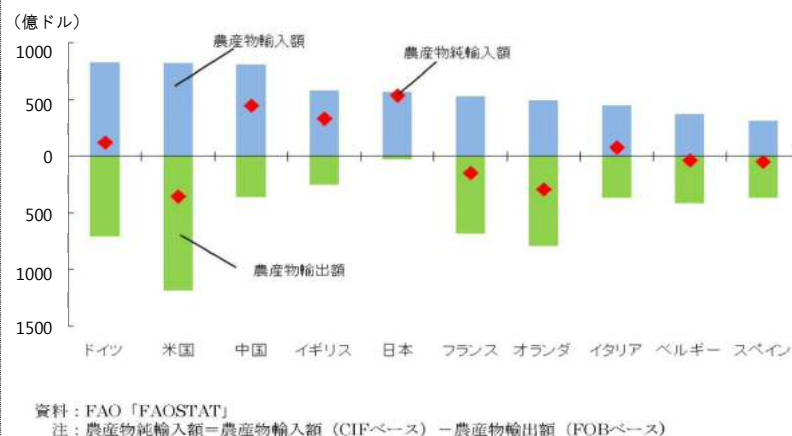
本市を取り巻く状況

●新潟市の耕地面積
農業者の高齢化や、農業従事者の減少により、毎年100～200ha減少している。

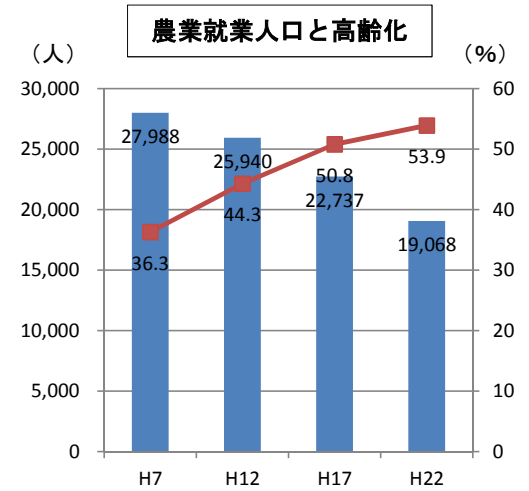
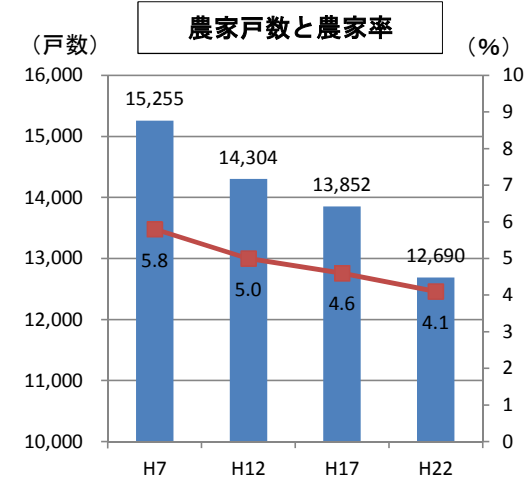


●農産物輸出入の状況
我が国は輸入額に対して輸出額が著しく小さい。

農産物輸入額上位10カ国の農産物輸入額・輸出額・純輸入額(2008年)



●本市農業の担い手の状況
農家戸数、農業就業人口ともに減少傾向にあり、担い手の高齢化も進んでいる。



出典：農林業センサス

取り組むべき課題と今後の方向性

◎国家戦略特区、ニューフードバレー

- ▷「ニューフードバレー」の取組みについては、農業を含めた食関連産業全体を成長産業に導くため、国家戦略特区を最大限活用し、農業経営基盤や食品産業の競争力をより強化することが必要。
- また、拠点性を活かし、北東アジアに向けた農産物輸出入を促進し、東南アジアなどとの戦略的な経済交流を重点的に進めることが必要。

◎食と花の新潟

- ▷本市「食」と「花」の国内外へのアピールをさらに強化し、交流人口拡大や農業、産業の振興につなげていくことが必要。